

平成25年11月22日
福島県土木部砂防課
福島河川国道事務所

安達太良山噴火時の減災のため 緊急減災対策砂防計画の第3回作業部会を行います！

～学識経験者や防災行政関係者により
「福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会」を開催～

火山噴火に伴う土砂災害に対して、緊急対策を迅速かつ効果的に実施し、被害をできる限り軽減（減災）するために、火山及び砂防の学識者と防災行政関係者からなる委員会を平成22年度に設置し、福島県内の火山について減災計画の検討を行ってきました。

今回は、安達太良山について、第3回作業部会を開催し「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の検討をします。

日時：平成25年11月26日（火）

14:30～16:30

「福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会・第3回安達太良山作業部会」

※参考資料 次第（別紙1）

名簿（別紙2）

場所：福島ビューホテル 3F 安達太良Ⅱ ※位置図（別紙3）

内容：安達太良山火山噴火緊急減災対策砂防計画

「緊急ハード対策ドリル」及び「緊急ソフト対策ドリル」について

※概要（別紙4）

（参考）

平成24年11月6日 第1回作業部会 開催

平成25年 2月1日 第2回作業部会 開催

記者発表先：福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ

問い合わせ先

福島県土木部砂防課

TEL: 024-521-7491（直通）

主幹兼副課長 小川 辰壽

国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所

TEL: 024-546-4331（代表）

副所長（河川） 畠山 浩晃

調査第一課長 大平 知秀

平成 25 年度
福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会
第 3 回安達太良山作業部会

日 時 : 平成 25 年 11 月 26 日 (火) 14:30～16:30
場 所 : 福島ビューホテル 3F 安達太良Ⅱ

議 事 次 第 (予定)

1. 開 会
2. 開会挨拶
3. 部会委員紹介
4. 議 事
 - 1) 第 2 回作業部会の指摘事項と対応方針
 - 2) 緊急ハード対策ドリル
 - 3) 緊急ソフト対策ドリル
 - 4) 今後の予定
 - 5) その他
5. 閉会

福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 安達太良山作業部会名簿

(敬称略)

部会長	井良沢 道也	岩手大学農学部 教授
部会員	植木 貞人	東北大学大学院理学研究科客員研究者
	佐藤 公	磐梯山噴火記念館 副館長
	長橋 良隆	福島大学共生システム理工学類 教授
	藤縄 明彦	茨城大学理学部 教授
	蒲原 潤一	国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター 砂防研究室長
	石塚 忠範	(独)土木研究所 つくば中央研究所 土砂管理研究グループ 火山土石流 チーム 上席研究員
	富永 茂	林野庁 関東森林管理局 福島森林管理署長
	飯塚 充由	林野庁 関東森林管理局 会津森林管理署長
	堀田 洋一	福島県 土木部 砂防課長
	小池 喜司雄	福島県 生活環境部 災害対策課長
	加藤 政樹	福島県 農林水産部 森林保全課長
	瀬戸 孝則	福島市長
	前後 公	猪苗代町長
	品川 萬里	郡山市長
	三保 恵一	二本松市長
	高松 義行	本宮市長
	押山 利一	大玉村長
	卷 和男	気象庁 仙台管区气象台 火山防災情報調整官
	小池 二郎	気象庁 福島地方气象台 防災管理官
	鈴木 勇治	東北地方整備局 河川部 流域・水防調整官
	上原 信司	北陸地方整備局 河川部 地域河川調整官
	安部 勝也	東北地方整備局 福島河川国道事務所長
【事務局】		福島県土木部 砂防課 東北地方整備局 福島河川国道事務所

交通・アクセス



福島ビューホテル 3F 安達太良Ⅱ

福島県福島市太田町13-73

TEL: 024-531-1111

福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

第3回 安達太良山作業部会の討議概要

日時：平成25年11月26日14:30～16:30
場所：福島ビューホテル(3F安達太良Ⅱ)

● 目的

- ・本作業部会は、福島県火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会（委員長：石川芳治教授（東京農工大学大学院））に設置され、安達太良山に関する個別の検討を行うことを目的としています。
- ・検討内容は、安達太良山の噴火シナリオとそれに基づく緊急ハード対策ドリル、緊急ソフト対策ドリル、平常時からの準備事項であり、これらを取りまとめて「安達太良山火山噴火緊急減災対策砂防計画（部会案）」を作成する予定です。

● これまでの経緯と今回の討議内容

- ・平成24年11月6日に第1回作業部会を開催し、井良沢道也教授（岩手大学農学部）が部会長に選出されるとともに、緊急減災対策砂防計画検討の基本となる噴火シナリオを中心に議論を行いました。
- ・平成25年2月1日には第2回作業部会を開催し、噴火シナリオに基づいた被害影響範囲の想定、緊急減災対策の対策方針について主に議論を行いました。
- ・今回の第3回作業部会では、緊急減災ハード・ソフト対策の具体策について検討を行います。

● 緊急ハード対策ドリル

- ・緊急ハード対策とは、火山噴火時の被害を可能な限り軽減するために緊急的に設置する砂防施設等を指します。
- ・平成23年1月に宮崎県と鹿児島県の県境にある霧島山（新燃岳）が噴火した際、国土交通省では既存の砂防堰堤に貯まっている土砂を除去（除石）するなどの対応が図られました。
- ・今回の作業部会では、安達太良山で想定される被害を軽減するための緊急ハード対策の具体策を検討します。



霧島山(新燃岳)の噴火時に行われた緊急除石

● 緊急ソフト対策ドリル

- ・規模の大きな火山噴火に対して、ハード対策だけで被害をなくすことは困難です。また、緊急ハード対策に従事する作業員の安全も確保しなければなりません。そこで、緊急減災対策は火山監視等のソフト対策も組み合わせた計画とします。
- ・緊急ソフト対策として、火山監視機器の緊急的な整備、噴火時の緊急調査、リアルタイムハザードマップの作成などを実施していく方針です。
- ・今回の作業部会でこれらソフト対策の具体策についても検討を行います。



霧島山(新燃岳)の噴火時、緊急的に樹木に固定した監視カメラ